

第 39 回土木計画学研究発表会（春大会）：2009. 6. 13～14（徳島大学）

企画論文部門 セッション討議内容の記録

|                                       |  |
|---------------------------------------|--|
| セッション名：ITS 社会における道路案内誘導の体系化と高度化       |  |
| 日付： 6月 13日（土）曜日，セッション時間： 8：30 ～ 10：00 |  |
| オーガナイザー・司会者名（所属）：外井哲志(九州大学)           |  |
| 討議内容                                  | <p>セッション全体：参加者：約 40 名</p> <p>本セッションは、古くて新しい案内標識体系化の観点と、ITS 等の最前線の案内誘導技術の高度化の観点から案内誘導問題を考えようとするものであり、案内標識関係が 4 編、走行支援・情報提供システムの分野から 2 編の発表があった。発表に入る前にオーガナイザーから、配布資料に基づいて、案内誘導関係の研究のレビューと、今後の研究の方向性に関する体系的な説明を行い、新旧の案内技術を統合する「案内学」の提案を行った。(106)、(107)の発表終了後、会場から、案内標識による案内とカーナビ等による案内の分担の問題、案内標識の諸問題点に関し、本セッションの意義に関わるコメントがあり、案内誘導に関わる問題意識を中心に、若林・外井から回答した。具体的な質疑内容は、以下のとおりである。</p> <p>コメント・質問</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ カーナビが発展する中で、ドライバーに現在位置の情報をどの程度まで知らせておくべきなのか、そこを議論すべきではないか。</li><li>・ 現在の地図にも問題があるのではないか。日本の住所は地名表示となっており、面の情報なので位置を特定するにはわかりにくい。</li></ul> <p>回答：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ ドライバーもせめて、今自分がどこにいるかの情報くらいは知らないとは 2 回目に来たときに記憶がないというのは寂しいのではないか。</li><li>・ 日本の案内システムは、案内標識やカーナビがあり、それぞれ独自のシステムとなっているがそれぞれの役割を明確にし、お互いに連携していくことが重要ではないかと考えている。</li></ul> <p>(108)～(111)の発表に関しては、それぞれの発表に即した技術的な質疑が行われた。全体に発表時間・討議時間ともに短く、セッション内では十分な討議ができなかったため、発表者を中心にセッション終了後、検討会を開催し、セッション内容の検討およびこの分野の今後の活動方針について議論し、この分野の研究を継続していくことを確認した。</p> |
|                                       | <p>(発表番号) 発表者名 (所属)：(106) 若林拓史(名城大学)</p> <p>発表タイトル：「道路案内標識のプリンシプルと体系化」</p> <p>各国および従来提案されている案内誘導の考え方の紹介と”Principle”の存在が希薄な原因を道路案内標識の歴史的背景から考察したものである。質疑は以下のとおり。</p> <p>コメント：案内はカーナビだけでよいのではないか。なぜ、標識が必要なのかという議論もある。</p> <p>回答：カーナビを持っていても確認のために道路案内標識を見るという現実の他に、道路運転の楽しさやリピーター訪問者の開発という点でも意義がある。</p>  |

|   |
|---|
| <p>(発表番号) 発表者名 (所属): (107) 外井哲志(九州大学)</p> <p>発表タイトル:「案内標識情報と分岐期待距離による目的地への到達確率の表現」</p> <p>道路網における案内標識情報の曖昧さを健闘するために、運転者の経路走行における判断情報を「分岐点同定情報」と「進行方向情報」に限定し、個々の交差点におけるこれらの情報の提供と運転者の経路走行との関係を考察した上で、目的地までの到達確率を記号で表現したものである。質疑は以下のとおり。</p> <p>コメント:運転は完全自動というレベルもある。道路案内地図との関係が必要(共通位置参照方式)</p>                                   |
| <p>(発表番号) 発表者名 (所属): (108) 吉井稔雄(京都大学)</p> <p>発表タイトル:「交差点記号化標識の配置記号決定プログラム開発」</p> <p>目的地まで走行する際の分岐点となる交差点を識別するために、著者らが新しく提案した「交差点記号化標識」の配置記号を合理的に決定するために開発したプログラムのアルゴリズムの紹介である。次のようなコメント、質疑が行われた。</p> <p>コメント:現在、全国の交差点名をデータ化する作業を進めている。</p> <p>質問:注視時間が5秒間短縮したとあるがどういう状態なのか?</p> <p>回答:1回に5秒間注視していたわけではなく、合計で5秒間見ていたということである。</p> |
| <p>(発表番号) 発表者名 (所属): (109) 大塚康司 ((株)建設技術研究所)</p> <p>発表タイトル:「案内情報の不整合によるドライバーの心的不可の評価」</p> <p>カーナビと案内標識の案内情報が異なっていたり、カーナビだけでは曲がるべき交差点を特定できない場合に運転者にかかる心的負荷を、アイマークレコーダーで被験者の視線や瞳孔径等を計測する室内実験をとおして、明らかにしたものである。特定の質問は無かった。</p>   |
| <p>(発表番号) 発表者名 (所属): (110) 浅野美帆 (国土技術政策総合研究所)</p> <p>発表タイトル:「走行支援道路システムにおける安全・円滑化実現のための情報提供手法の検討」</p> <p>路側インフラと車載機との通信によって様々な情報を提供する走行支援道路システム(AHS)における安全運転支援や渋滞情報等の道路交通状況の情報提供サービスのヒューマン・マシン・インターフェイスに関する首都高速道路における行動実験結果の紹介があり、技術的な質問とその回答があった。</p>  |
| <p>(発表番号) 発表者名 (所属): (111) 小笠原誠 (株式会社 四電技術コンサルタント)</p> <p>発表タイトル:「前方状況情報提供システムにおける静止画像表示の活用可能性検証」</p> <p>次世代道路サービスにおける静止画像と音声による前方状況情報提供サービスの情報提供コンテンツの検討を検討するに当たり、ITV映像から抽出した静止画像中の車両台数と混雑度の関係を整理し、静止画像からの運転者の交通状況判断基準を検証した内容の報告があり、技術的な質問とその回答があった。</p>   |

※発表件数に応じて適宜追加してください。